

H27年建築1級学科試験問題

No1 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 静穏時の呼気による成人1人当たりの必要換気量は、二酸化炭素濃度を基にして定めた場合、30 m³/h 程度である。
- 2 換気量が一定の場合、室容積が大きいほど換気回数は少なくなる。
- 3 温度差による自然換気の場合、室内外の圧力差が0となる垂直方向の位置を中性帯といい、この部分に開口部を設けても換気はほとんど起こらない。
- 4 室内空気の一酸化炭素の濃度は、100 ppm 以下となるようにする。

答え--- 4

一酸化炭素の濃度は、100万分の10以下=10 ppm 以下となるようにする。令129条の2の6

No2 日照、日射及び日影に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 hi 35度における南面の垂直壁面の可照時間は、春分より夏至の方が長い。
- 2 建物により影になる時間が等しい点を結んだ線を、等時間日影線という。
- 3 日射は、一般的に直達日射と天空日射の2つに大別される。
- 4 同じ日照時間を確保するためには、緯度が高くなるほど南北の隣棟間隔を大きくとる必要がある。

答え--- 1

夏至の時は太陽高度が高くなるので、南面の日照時間は春分や冬至の時のほうが長くなる

No3 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

- 1 1つの点音源からの距離が2倍になると、音圧レベルは6 dB低下する。
- 2 向かい合った平行な壁などで音が多重反射する現象を、ロングパスエコーという。
- 3 残響時間とは、音源が停止してから音圧レベルが60 dB減衰するのに要する時間をいう。
- 4 人間が聞き取れる音の周波数は、一般的に20 Hzから20 kHzといわれている。

答え--- 2

設問はフラッターエコーのこと。鳴竜（なぎりゅう）ともいう。ロングパスエコーは山彦（やまびこ）のことで、時間遅れのある反射音によって一つの音が二つに聞こえたりする現象。

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>